



明

分けた戦い



暗

KOMAZAWA 1 × 2 明治大学 I

駒大らしさ

優勝のためには残り3試合決して負けられない駒大。勝てば再び首位浮上の大一番で逆転負けを喫した。これにより自力優勝の道は消滅し、厳しい立場に立たされた。相手明大は天皇杯やリーグ戦と多くの試合を戦う中で急成長している。一週間で3試合とハードな日程にも関わらず法大に逆転勝ちし、ついに首位に躍り出した。法大戦後、明大の神川監督は「うちは常にチャレンジジャー。厳しい日程を強い気持ちで戦うことを駒大から学んだ。うちは指導者の影響力より選手に任せる選手が中心のチーム。これが他とは違う明大らしさ」と語った。今節も明大の底力を見せ付けられる展開となった。八角は「実力不足。相手の得意な形でやられた」と試合を振り返った。

上。同点弾が駒大ゴールに突き刺さる。さらに明大のパス回しに次第にDFラインは引き気味になり、プレスが甘くなる。「途中、自分たちでリズムを崩し、試合を悪くしてしまった」と小林。このチャンスを見逃すことなく攻めてくる明大に68分、左サイドから攻め込まれ追加点を奪われる。終盤小野里、山崎、三島を投入し運動量、攻撃力を上げ、巻き返しを図るも最後まで明大の勢いを止めることはできなかった。

試合後、涙を流していた塚本はその理由をこう語る。「必死に応援してくれた人達に申し訳ない。こんな不甲斐ない試合をした俺たちにも声出してくれて、励ましてくれる仲間がいる。応援の力は大きい」戦うのはピッチに立つ選手だけではない。部員一人ひとりがそれぞれの立場で仲間のために頑張っている。それが「駒大らしさ」だ。泣いても、笑ってもあと2試合。自力優勝は断たれたが戦う気持ちは折れていない。「最後まで諦めず頑張る！それが駒大」(八角)駒大らしさを胸に選手達はすでに前を向いている。

(北澤 麻紗子)